

バッハの命日に寄す 「ゴールドベルク変奏曲」の再発見

ピアノ演奏か？ チェンバロ演奏か？
鍵盤楽器演奏者の立場からのみちびき



平沢 匡朗 Masaaki HIRASAWA (チェンバロ)

演奏曲について

1742年出版されたJ.S.バッハによる30の変奏曲 BWV988 バッハの弟子でクラヴィーア奏者のゴールドベルクが仕える伯爵の“眠れぬ夜”を慰めるために、バッハが書き下ろした変奏曲として知られる。

レクチャーのポイント

近年、ピアノで演奏されることも多い曲だが、ピアノ奏者平沢匡朗が敢えてチェンバロで演奏する意味を自問し、私たちにウエルリスナーへと導く。

2019年 7月28日(日) 午後2時開演 (午後1時30分開場)

松本記念音楽迎賓館

料金：3,000円 学生以下 2,000円 ※入場の際、学生証の呈示をお願いいたします。(全自由席)

ご予約・お問い合わせ：☎03-3709-5951(松本記念音楽迎賓館)

■ご予約の上、代金は当日、受付にてご精算ください。 ■お車の駐車は足のご不自由な方を優先させていただきます。

バッハの命日に寄す 「ゴールドベルク変奏曲」の再発見

平沢 匡朗 (ひらさわ・まさあき) piano

桐朋学園大学卒業。福元 さざれ、中山 靖子、渡邊 康雄、デート
レフ・クラウスの各氏に師事。GPAダブリン国際ピアノコンクール
特別賞受賞。各地よりピアノ協奏曲のソリストとして招かれたほ
か、ダブリン、ウィーン、東京など国内外においてのピアノリサイ
タル、NHK・FM『FMリサイタル』などの放送出演など、独奏者と
して幅広く活動している。また、室内楽奏者としても、イヴリー・
ギトリス、トーマス・フェオドロフ、カリン・アダム、マルタ・カーデ
ム＝ミサク、水島 愛子(バイエルン放送交響楽団元奏者)、木野
雅之、天満 敦子、等のヴァイオリニスト、宮原 卓也、原田 茂生他
多数の声楽家と共演。1996年より《Allegro Vivo・オーストリア
国際室内楽音楽祭》に参加、22年にわたり音楽祭のコレペティ
トゥア(公式伴奏者)として活動、多数のヨーロッパ若手演奏
家と共演しており、その経験から得た独奏者として独自の解釈と
視点による、モーツァルト、ベートーヴェン等ウィーン古典派音
楽の演奏には定評がある。現在、洗足学園音楽大学講師。

《主な演奏歴》

- ※ 1996年より《Allegro Vivo・オーストリア国際室内楽音楽祭》
に参加、22年にわたり音楽祭のコレペティトゥア(公式伴
奏者)として活動。
- ※ 2005年と2013年にモーツァルトのピアノソナタの全曲連続
演奏会を2回開催している。
- ※ 2016年からは、横浜市神奈川区民文化センター(かなっく
ホール)におけランチタイム・レクチャーコンサートシリーズ
を始め、
- ※ 2016年度「モーツァルトの会」、2017年度「ショパンの会」、
2018年度は「メンデルスゾーンの会」を監修、出演するなど
好評を博している。

《ピアニストとしての活動の他》

チェンバロ奏者として

- ※ 2011年9月には日本フィルハーモニー交響楽団とバッハの
ブランデンブルク協奏曲第5番を演奏、
- ※ 2015年12月および2018年9月22日には、バッハのゴールド
ベルク変奏曲全曲によるコンサートを開催している。

指揮者として

- ※ 2014年 2015年 王子ホール
- ※ 2017年 東京文化会館にて、ピアノ、指揮の2役によるモ
ーツァルトのピアノ協奏曲の演奏会などを行っている。

《これまで発表した主なCD》

- 『アルトウィーン／平沢匡朗ロマンティックアルバム』(1999年)
『平沢匡朗 プレイズ モーツァルト』
(2006年 9月レコード芸術誌準推薦)
『平沢匡朗プレイズベートーヴェン』(2007年)
『アンティーク アンソロジー』(2009年)
他多数あり、高い評価を得ている。



松本記念音楽迎賓館

- 東急田園都市線「二子玉川」駅 東口4番乗り場
東急バス [玉31]「成育医療センター」行き
または [玉32]「美術館」行き
所要時間：20～25分
バス停「岡本三丁目」下車徒歩5分
- 小田急線「成城学園前」駅 南口2番乗り場
東急バス [都立01]「都立大学駅北口」行き
所要時間：15～20分
バス停「岡本三丁目」下車徒歩5分

住所：東京都世田谷区岡本 2-32-15
電話：03-3709-5951

